

できることから始めよう～水辺の小さな自然再生事例集

水循環・まちづくりグループ／日本河川・流域再生ネットワーク事務局 後藤勝洋

JRRN（日本河川・流域再生ネットワーク）では、市民が河川管理者と連携して日曜大工的に取組める「小さな自然再生」に関わる事例集を、編集委員会を立ち上げ、有志による協働で作成・発行致しました。本事例集の主な対象とする読者は、地元の河川や水辺で活動している市民の方々を想定しており、本書を通じて「小さな自然再生」に興味を持ち“私たちもやってみよう”と思っていただくことを期待しています（下記URLで公開）。

<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/567.html>



水辺の小さな自然再生事例集

◇構成

1. 水辺の小さな自然再生とは
2. 水辺の小さな自然再生を行うための留意点
3. 事例紹介
 - ①北海道／駒生川、②神奈川県／黒須田川、③愛知県／五条川、④岐阜県／天神川、⑤岐阜県／桂川、⑥滋賀県／天野川、⑦滋賀県／喜撰川、⑧滋賀県／高時川、⑨兵庫県／住吉川、⑩兵庫県／安室川、⑪山口県／島田川、⑫福岡県／室見川、⑬福岡県／上西郷川（特集）上西郷川現地にて 島谷先生インタビュー
4. 「小さな自然再生」座談会

巻末資料

- －編集協力者紹介
- －小さな自然再生の現場へ行ってみよう
～AQMAP 紹介～
- －参考図書

あとがき

玉井信行（東京大学名誉教授／JRRN顧問／事例集監修）

本事例集の概要を、玉井信行名誉教授（JRRN 顧問／事例集監修）に執筆いただいた「あとがき」での紹介文をお借りして以下に示します。

■ 第1章「水辺の小さな自然再生とは」では、①自己調達できる資金で行うこと、②多様な主体が参加しそれらの相互の協働が可能であること、③修復と撤去が容易であること、という三つの条件を満たしている取り組みを「小さな自然再生」と呼ぼうと提案しています。

■ 第2章「水辺の小さな自然再生を行うための留意点」では、川を流れる水やその周辺の川原は、社会の中では法律的に規定された上で人間に利活用されていることが最初に述べられています。ここでは、川が自然界の構成要素であるとともに、社会的な要素であるという両面に気を配る必要があることを教えています。

■ 第3章は事例紹介で、北海道から始まり、南へ移動する順番で13の川での事例が紹介されています。各事例では、最初に目的の項を掲げ、簡潔に目的が記され、また、きっかけや経緯も補足されています。本事例集は、簡潔な内容紹介、「現場のキーパーソン」などの囲み記事、生き活きとした人々の写真、文字部分と写真配置などの巧みなデザインなど、視覚的に親しみやすい書物となっています。



駒生川の魚道

桂川のパープエ

上西郷川の丸太式水制

事例集で紹介している活動

■ 第4章で紹介する座談会では、最初にこれまでの「小さな自然再生」を振り返る内容で編集委員関係者の肉声を聞きました。次いで、事業の円滑な展開を図るためには欠くことが出来ない行政の施策との連携、今後の更なる推進に向けて鍵となる考え方や具体策が議論されました。

本事例集が、「小さな自然再生」に関する全国の知恵や教訓を共有することの一助となり、地域に根差した川づくりの更なる推進に寄与すれば幸いです。なお、本事例集は、（公財）河川財団の河川整備基金の助成を受けて作成されたものです。本事例集の作成に当たり、ご指導・ご協力をいただいた編集委員ならびに関係者の皆様に感謝を申し上げます。

JRRN は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に事務局の共同運営を行っています。